

# COMPANY PROFILE

## 会社概要

商号 日本ドライケミカル株式会社  
(Nippon Dry-Chemical CO., LTD.)  
代表者 代表取締役社長 遠山 榮一  
設立 1955年4月23日  
資本金 700百万円(2022年9月30日現在)  
従業員数 740名/グループ総数1,038名(2022年3月31日現在)

## 役員体制 (2022年9月30日現在)

役員	代表取締役社長	遠山 榮一
	常務取締役	浅田 裕冲
	取締役	亀井 正文
	取締役	松岡 猛
	取締役	山内 良介
	社外取締役	高橋 宏幸
	常勤監査役	大橋 徹
	社外監査役	渡慶次 憲彦
社外監査役	紀陸 保史	

## 株式の状況 (2022年9月30日現在)



株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
総合警備保障株式会社	1,100,000	15.93
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	516,800	7.48
日本ドライケミカル取引先持株会	402,900	5.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	319,200	4.62
株式会社初田製作所	200,000	2.89
新日本空調株式会社	192,000	2.78
沖電気工業株式会社	178,000	2.57
株式会社吉谷機械製作所	160,000	2.31
BNYM RE BNYMLB RE GPP CLIENT MONEY AND ASSETS AC	142,800	2.06
株式会社東京エネシス	140,000	2.02

※1 当社は自己株式280,647株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 株式のご案内

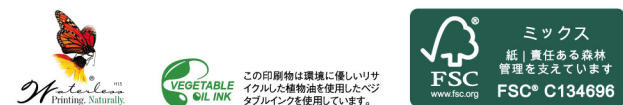
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月開催  
基準日 定時株主総会:毎年3月31日  
期末配当金:毎年3月31日  
中間配当金:毎年9月30日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告して  
定めた日

単元株式数 100株  
証券コード 1909  
公告の方法 電子公告の方法により、当社ホームページに  
掲載いたします。  
(<https://www.ndc-group.co.jp/>)  
ただし、事故等やむを得ない事由によって電  
子公告による公告が行えない場合は、日本経  
済新聞に掲載いたします。

### 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

- ・証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出  
およびご照会は、口座のある証券会社にてお願いいたします。
- ・証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先  
にご連絡ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話照会先 フリーダイヤル 0120-782-031  
(平日9:00~17:00/土日祝除く)



## NDC 日本ドライケミカル株式会社

〒114-0014 東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー  
<https://www.ndc-group.co.jp/>

第71期 第2四半期

# 株主通信

2022年4月1日~2022年9月30日



## NDC 日本ドライケミカル株式会社

証券コード 1909

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループの属する防災業界におきましても、原材料価格の高騰による業績への影響が懸念される状況にはありますが、防災・減災を目的とした公共事業、生産設備投資関連及び都市部の大規模再開発等による需要拡大への期待感は尚、継続しているように見受けられます。

このような経済状況のもと、当社グループは引き続き自動火災報知設備から消火設備、消火器そして消防自動車までを広くカバーする総合防災企業としての立ち位置を更に強化しつつ、製品ラインナップの拡充を図り積極的な営業活動を推進してまいりました。

また、各種防災設備の設計・施工、消火器及び消防自動車等の製造そしてそれらのメンテナンスを通じて、世の中に高度な安心・安全を提供し、より良質な社会インフラを構築するという社会的使命を果たすべく、グループ一丸となって注力しております。

## 次世代消防防災の実現に向けて、進化する総合防災企業として

当社は、消火器の製造からスタートし、65年を超える歴史のなかで消火設備、消防自動車、自動火災報知設備の分野へと事業領域を拡大し続けお客さまの防災にかかわるすべてのニーズにワンストップでお応えする総合防災企業へと発展してまいりました。

さらに、競合他社との差別化を図るために、アライアンスの強化および研究開発体制の強化を推進し、当社オンリーの防災製品・防災システムの開発を進めてまいりました。

2023年3月期の上期においては、防災関係の展示会へ積極的に出展し、従来の消防機器・防災設備ではカバーしきれない、火災を未然に防ぐ予防防災に注力した製品や、環境にやさしい薬剤を採用した製品など、次世代消防防災の実現に向けた防災製品・防災システムをPRいたしました。

また、株主還元強化および資本効率の向上を図るため、自己株式の取得と株主優待制度の拡充を実施いたしました。株主の皆様への利益還元が重要な経営課題の一つと認識しており、経営基盤の強化を図りつつ、今後も、当社株式の魅力を高めるための株主還元を検討してまいります。

当社は、火災報知から消火までをカバーする最強の消防防災プロフェッショナルとして、環境対応型社会の要請に応えつつ、お客さま視点に立った業界ナンバーワンの総合防災メーカー、エンジニアリングカンパニーとして進化し続けてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも当社の発展にご期待いただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 遠山 榮一

# NEWS & TOPICS

## ニュース&トピックス

### 株主優待制度を拡充しました

この度、当社株式への投資魅力を一層高めることを目的として、株主優待制度を拡充しました。

現行の株主優待制度に、300株以上保有の株主様は株主優待品を2品目選択できる優待区分を追加しました。

また、株主様が選択できる株主優待品を、10品目から15品目に増やしました。

株主優待品の発送は、2023年2月下旬頃を予定しております。引き続き、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

100株以上300株未満保有の株主様…1品目選択  
300株以上保有の株主様……………2品目選択

株主優待品の一部をご紹介します。



救急セット巾着タイプ  
応急手当てに役立つ一式。

マイレット mini-10  
非常用のトイレ(10回分)。

ロゴス セルフインフレートまくら  
自動でふくらむクッションまくら。

玄米リゾットギフトセット  
玄米リゾット3種。5年保存。



### IFCAA2022 YOKOHAMA 横浜国際消防・防災展

2022年6月8日～9日 パシフィコ横浜

アジア圏および国内の「防災力向上」に繋がることを目的として2年ごとに開催されるイベントです。

#### 出展製品



#### クイックスプラッシャー

火災抑制剤を瞬時かつ広範囲に放射する機器で、ガソリン等の蒸発を抑制して引火を防止することができます。

#### スプラッシュドライ

バスのエンジンルームで火災が発生した際に、粉末薬剤を瞬時に放射して消火するシステムです。



[参考出品]

#### 新水系消火器

環境にやさしいふっ素フリーの消火薬剤を採用した消火器。薬剤が素材に染み込みやすく、高い消火性能を発揮します。

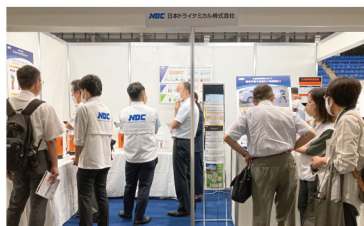
#### PRポイント

バス火災事故の被害を最小限にするために開発したスプラッシュドライを、バスの模型を用いて展示しました。



### RESCUE EXPO in 立川 第50回全国消防救助技術大会 同時開催イベント

2022年8月25日～26日 アリーナ立川立飛



全国消防救助技術大会と同時開催。全国の消防・防災関係者が多数来場するイベントです。

消防関係の方を中心にご来場いただき、救助活動の際に役立つ製品として「クイックスプラッシャー」をPRいたしました。



### 令和4年度 防衛産業参入促進展示会

2022年10月27日～28日 ホテルブランドヒル市ヶ谷

防衛産業への適用可能性のある製品・技術を保有する企業が参加するイベントです。



防衛省・防衛装備庁、防衛関連企業の方にご来場いただきました。燃料の漏洩対策などの観点から「クイックスプラッシャー」を紹介しました。



## COLUMN

- 社員が語るNDC -



千葉製造部  
消火器製造2課  
**林 正樹**  
2020年入社

私は、いざというときに生命や財産を守る防災製品・システムを扱う仕事に興味を持ち、入社を志望しました。

現在は、消火器を製造する部署で、消火器に充填する消火薬剤の製造に従事しています。類似した消火薬剤を何種も作ることもあり、原料の分量管理や手順を確実に把握するよう心がけています。また、検査で使用する機器の知識不足を痛感することがあり、常に学ぶ姿勢で業務に取り組んでいます。

仕事柄、さまざまな技能を求められるので、入社後、フォークリフト、クレーン、玉掛け、消防設備士乙種6種類の資格を取得しました。今後も引き続き、新しい消火薬剤の製造方法および検査業務を習得すると共に、その知識を次の世代へ継承していく環境をつくっていききたいと思います。



現在の趣味はドライブ。元々インドア派だったのですが、健康のために外に出る機会を増やそうと思ったのが、きっかけです。

## ABOUT PERFORMANCE

### 第2四半期累計期間 連結決算概要

#### 連結貸借対照表

(単位:千円)

	前期末 2022年3月31日現在	当第2四半期末 2022年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	29,197,667	29,269,067
固定資産	12,254,074	12,145,666
有形固定資産	9,232,495	9,324,120
無形固定資産	1,090,372	1,006,526
投資その他の資産	1,931,206	1,815,019
<b>資産合計</b>	<b>41,451,742</b>	<b>41,414,734</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	16,056,496	13,813,990
固定負債	5,694,466	5,999,347
<b>負債合計</b>	<b>21,750,962</b>	<b>19,813,338</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	16,323,299	16,891,936
資本金	700,549	700,549
資本剰余金	2,995,006	3,023,864
利益剰余金	12,884,651	13,582,891
自己株式	△ 256,908	△ 415,369
その他の包括利益累計額	500,482	556,395
非支配株主持分	2,876,997	4,153,064
<b>純資産合計</b>	<b>19,700,779</b>	<b>21,601,395</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>41,451,742</b>	<b>41,414,734</b>

#### 自己資本比率(連結)

40.6% 42.1%

#### POINT

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、売上債権および仕入債務の減少等により総資産が前期末比37百万円減少し、資産合計は41,414百万円となりました。また、利益剰余金の増加等により株主資本が同568百万円増加し、これらの結果、自己資本比率は42.1%となりました。

#### 連結損益計算書

(単位:千円)

	前期(累計) 自2021年4月1日 至2021年9月30日	当期(累計) 自2022年4月1日 至2022年9月30日
<b>売上高</b>	<b>19,973,174</b>	<b>21,084,675</b>
売上原価	15,586,179	16,234,164
<b>売上総利益</b>	<b>4,386,994</b>	<b>4,850,510</b>
販売費及び一般管理費	3,437,013	3,635,173
<b>営業利益</b>	<b>949,981</b>	<b>1,215,337</b>
営業外収益	73,314	145,482
営業外費用	249,399	64,467
<b>経常利益</b>	<b>773,896</b>	<b>1,296,352</b>
特別利益	508	111,960
特別損失	5,899	9,497
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>768,505</b>	<b>1,398,815</b>
法人税等合計	296,927	390,142
<b>四半期純利益</b>	<b>471,577</b>	<b>1,008,672</b>
非支配株主に帰属する四半期純利益	63,494	187,911
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>408,083</b>	<b>820,760</b>

#### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前期(累計) 自2021年4月1日 至2021年9月30日	当期(累計) 自2022年4月1日 至2022年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,138,785	△ 422,548
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 500,219	△ 409,332
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 579,400	334,006
現金及び現金同等物に係る換算差額	12,985	71,467
現金及び現金同等物の増減額	72,151	△ 426,407
現金及び現金同等物の期首残高	4,516,905	5,549,896
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,589,057	5,123,488

#### POINT

当第2四半期連結累計期間の連結損益は、防災設備事業において大型案件の工事進捗が進んだこと、消火設備用機器・製品の販売が好調だったこと等により、売上高は前年同期比1,111百万円の増収、営業利益は同265百万円の増益となりました。